## べつトルのベクトル中と行列の行列中本田毒博(有朋学園)

でクトルとベクトルの内積や行列と行列の積を拡張し、表題のことを定義して、その性質を消ぐて見たり。

以下宗教の範囲的で論ずることととし、中の底は正、対数の底は1

スペース節約りなめ必要は灰じBASICにならい、abをaへらで表す。

I. (1) 自然数Nは亳因数分析されて

また Nの約後NII 全杯に

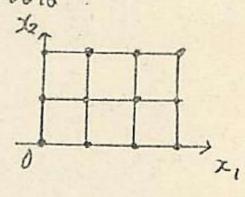
n(N)=(n,+1)(N2+1) --- (Ne+1)--- 3 この証明はふつう「Nの約あはり」がの約あの標であり、りしれの約該はから、だ、い、たいの(n+1)こだから③となる」ともれる。 はから、だ、い、たいの(n+1)こだから③となる」ともれる。 (2) これなない(見方をかえて次のようはも考えられる:

On i 
$$\log N = \log (p_i^{n_i} - p_k^{n_c}) = \sum_{i=1}^k n_i \log p_i$$

## 23x3, log M= & milg pi ---- 5

否にも一定とするとMは(m,---,me)に対応する。 即ちMは基本でクトルの答とがそれぞれ log pi (1ミイミル)の語る し次えユークリッド空間の「箱型」の領域

logM=m, log2+m2log5で ME対応する(m, m2)が右回の ・即の格殊に対応することから 1(2352)=(3+1)·(2+1)=12. となる。



(3)上の考えと次のように扩強しよう: 先前を2次元の場合にとる。

a,bは/iない正数、(a+b)、X,Y 家庭として  $u=a^{2}b^{y}$   $\alpha$ とう log u=x log a+y log b-① これを2つのベクトル <math>(log a, log b)、(x,y) の内積と見る、定義1 a>0, b>0 aと g

log(a,b)=(loga,logb)

を有る。

またり から log( $a^xb^y$ ) = Ulog a)·ス+(log b)·y  $= (log a, log b) \cdot (x, y) = (log (a, b)) \cdot (x, y) \cdot (8)$ 主義 2  $(a, b)^{(x, y)} = a^x \cdot b^y$  で発表する。

これがベクトルのベクトル中の定義であるが、内轄(4.6)・(2,4) = a・スト b・y にかいてナー・・・・・ →へに一段格上げ(1)したものにあたる。

(4)一般の次元に話を戻すことにしよる。

2,3,5,--とすべての素数を小さい順にとったものを 改めて þ, þ, þ, か, --とするとで,すべての自然数Nは

 $N = p_1^{n_1} p_2^{n_2} \dots = \prod_{i=1}^{\infty} p_i^{n_i'} - \dots = 9$ 

名niはの以上の整数で、ni=0は有限化了、 従って無限率積ではまい。

i log N = 芝n; log pi 七有限级数 --- (10)

log pi, log pa, 一の長さの基底でクトルをもつ空間 (全季表の対数空間ともいうできもの)をSiとすると

定型1 上のNは兄内の有限次元の格子点は対象のる。(各座標とも正) 定義3、この格子点と表子へつトルをしていてきす。

定理2 自然をNi,N2にフリス明らかに  $\log(N_1N_2) = \log N_1 + \log N_2$   $\log(N_1/N_2) = \log N_1 - \log N_2$ 家務 C = 2  $\log N$  C = C  $\log N$ 

(5)つずにすべての正の有理などは立に幸を自然あれてはまされる。

Y=N/N: leg Y=leg Ni-leg No
定義4 log Y=log Ni-leg No
このとき

定理3 すべての正の有理あは52内の格子をドナルでする.

尚、定理1,定理3で、兄ということ、それは会まれるすでこの有限次元の空間の和野の空内の意味である。

定理 4 正の有理な Y, 12についても明らかに

log(Y, Y2)= log Y, + log Y2
log(Y, /Y2)= log Y, - log Y.

家語CF対しlog Y = Clog Y

II. (1) 正刻11911 宝额1116前5 (1至152)的对1

log IT  $a_i^{b_i} = \sum_{i=1}^{l} b_i \log a_i = \sum_{i=1}^{l} (\log a_i) \cdot b_i' - \cdots$  (1)  $a_i^* = a_i \cdot \cdots \cdot a_{l} \cdot b_{l} \cdot b_{l} \cdot \cdots \cdot b_{l} \cdot \cdots \cdot b_{l}$ 

定義. 5  $\overline{a} \wedge \overline{b} = (a_1, \dots, a_e) \wedge (b_1, \dots, b_e)$   $= a_1 b_1 \dots a_e^{be}$ 

(2)かり log(a1b)= loga. B---- (3)

の公式が得られる。

(2)行列の行列中と一般に定義する前に、また2×2行列に 例をとって話を進めよう。

以下小文学時 本 ~ 2正数 & L x.

$$A = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{pmatrix}, B = \begin{pmatrix} b_{11} & b_{12} \\ b_{21} & b_{22} \end{pmatrix}, C = \begin{pmatrix} c_{11} & c_{12} \\ c_{21} & c_{22} \end{pmatrix} = \frac{1}{6} \frac{$$

= (log (a1 912))· (b1 b12)= til.

$$\frac{1}{2} \frac{1}{12} \left( A \cdot B \right)^{A} C = (A^{A} C) \cdot (B^{A} C) + \frac{1}{12} \frac{$$

またすご2の小文字が正数 a L で log Alim = log (ais) e, m = (log ais) e, m とする. 空理了 log (Alim Buin) = (log Alim)·Buin 言正明は定理かと全称12至される。

後記以上のことにどんを登けがあるかりたなながらからまい。 強い工将せば、エントロピーとか転後確率行列が頻度行引りの ようなものか考えらんよう。

あるいは既に論せられているかもしれないが、小生なりにノ人で流んだものである。大方のご指率、ご批判を乞いたい。

New Definition of "Vector and Matrix " Matrix"

Yoshihiro Honda (Yuuhou Gakuen)

(1) 
$$(a_1, a_2, \dots, a_e) \ \hat{b_1} = a_1 \hat{b_1} \cdot a_2 \hat{b_2} \cdot \dots \cdot a_e \hat{b_e}$$

$$\begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ \vdots \\ b_e \end{pmatrix}$$

(2) When each i,j element of lxm matrix  $A_1,m$  is  $a_{i,j}$ . A i,n is expressed  $(a_{i,j})_{i,m}$ . It is the same with  $B_{m,n} = (b_{j,k})_{m,n}$ 

Then

$$A_{i,n} \cap B_{n,n} = \left( \prod_{j=1}^{n} a_{i,j} \cap b_{j,k} \right)_{i,n}$$

New defitions of vector "vector and matrix " matrix are proposed as above.

Some properties abot these definitions are introduced and discussed.